

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：33111

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00852

研究課題名（和文）ジャンル準拠指導と評価に基づくパフォーマンス課題の開発

研究課題名（英文）Development of Performance Tasks/Questions in Accord with Genre-Based Instruction and Assessment

研究代表者

今井 理恵 (Imai, Rie)

新潟医療福祉大学・リハビリテーション学部・講師

研究者番号：40766987

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果として、検定教科書にはジャンルの知識が十分に示されていないこと、教科書テキストのジャンルの掲載は説明ジャンル群のテキストに片寄っていること、「教科書テキスト」に付く読みのための発問課題はテキストの内容を順次羅列的に問う設問が多く、それらは学習者にジャンルの意識を持たせる問いとはなり得ないことなどが判明した。高校英語にジャンル準拠指導を導入するために本研究が提案するのは、学習指導要領にジャンルの知識を指導する必要性を明記すること、教科書に幅広いジャンルとテキストタイプを掲載すること、ジャンルの知識は明示的に教えること、ジャンルに正対した発問・課題を課すことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において、高校英語への導入を検討しているジャンル準拠教育は豪州での国語教育において「書くこと」の指導に端を発し、堅実な成功をおさめた指導法であり、現在は世界各国の言語教育で実施されているにもかかわらず、日本では未だ体系的な取り組みがなされていない。また、学習指導要領が参照しているCEFR（2001, 2018）には、指導者がジャンルの知識を意識した指導と評価を求める記載がある。そこで、本研究は、新学習指導要領の示す4技能5領域で活用できる有用なジャンル準拠課題を開発し、この指導法を中高の外国語教育の通常授業で実施することを目指して進めた。

研究成果の概要（英文）：This study revealed that there is not sufficient information about genre either in the Course of Study for the subject of foreign languages (English) or in the senior high school English textbooks. It was also found that the number of texts that belong to the explanation genre family is overwhelmingly larger than that of the other genre families such as narratives and arguments, and that most of the questions/tasks at the end of each lesson in the textbooks are nothing but a series of comprehension questions that cannot make learners aware of the genre of the text or genre knowledge in general. To promote genre-based instruction in high school English, this study suggests: (1) the need for teaching and learning genre knowledge be specified in the Courses of Study; (2) a well-balanced and wide range of genres and text types be included in school textbooks; (3) genre knowledge be explicitly taught in classrooms; and (4) genre-appropriate questions/tasks be included in the textbooks.

研究分野：ジャンル準拠教育

キーワード：ジャンル テキストタイプ ジャンル準拠指導 ジャンルの知識 高校英語 検定教科書

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## ジャンル準拠指導と評価に基づくパフォーマンス課題の開発

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本の中学・高校生に求められている「生きる力」を教科指導を通して育成するために、「ジャンル準拠指導と評価」を英語授業に導入し、その実践に不可欠な核となる発問・課題と評価基準となるジャンルに関する知識を検定教科書に準拠して開発することを目的とした。ジャンル準拠教育は豪州での国語教育において「書くこと」の指導に端を発し、堅実な成功をおさめた指導法であるにもかかわらず、日本では未だ体系的な取り組みがなされていない。本研究は、新学習指導要領の示す 4 技能 5 領域で活用できる有用なジャンル準拠課題を開発し、この指導法を中高の外国語教育の通常授業で実施することを目指して進めた。

(1) 本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」として

#### ● 中高英語教育の背景と本研究の核心的「問い」

文科省(2017)によれば、日本の中学・高校の生徒が将来予測困難で変化し続ける社会に主体的に参加し、さらに自らの人生もより良く生きていくためには「生きる力」が必須であり、その育成が学校教育のすべての教科に求められている。もちろん英語科も学習者の「生きる力」の育成に、教科指導を通して真正面から真剣に取り組む必要がある。したがって、本研究課題の核心をなす学術的問いは、「英語指導でいかに『生きる力』を学習者に育むか」である。そして、本研究が中学・高校において実証すべき仮説が「ジャンル準拠指導と評価がそれを可能にする」というものである。

#### ● 英語学習におけるジャンル準拠指導と評価の意義

ジャンル準拠指導と評価の基本的な考えは次のようなものである。コミュニケーションには常に何らかの目的があり、同時にその目的にはそれに適した定型の言葉づかい(「型」)がある(Feez, 1998; Hammond & Derewianka, 2001)。さらに、その「型」には特定の「構成」「内容」「用語(言語)」がある。すなわち「型」とは、コミュニケーションがその目的を果たすためのまとまりのある英文(テキスト)のことで、この「型」を「ジャンル」(genre)と呼ぶ。ジャンル準拠指導と評価とは、言語教育において、このジャンルの知識(Derewianka & Jones, 2016; Rose & Martin, 2012)を学習者に明示的に教え、特定の「型」を活用して言語運用、伝達行為を適切かつ効果的に行わせ、その結果を評価しようとするものである。これには教師と生徒の双方に利点がある。教師にとっては、学習目標とする完成形のテキストの構成、内容、言葉づかい(用語)について、明確にかつ自信をもって指導できるし、生徒にとっては、コミュニケーションの目的に適った特定の「型」全体が示されるので、目標とするテキストを見習って適切に表現することで効果的に学習することができる。

(2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性として

本研究の大きな目的は、ジャンル準拠の指導と評価によって「生きる力」を学習者に育むことであるが、より具体的には、日本で使われている中高の英語教科書の単元に沿って、このジャンル準拠指導と評価を行うための課題である「核となるパフォーマンス課題」(以下、PF課題)とその評価に必要な不可欠な評価基準を、4技能5領域で開発することである。さらに、開発課題(教材)は集大成として「実践ワーク集」出版やWebによりアクセス可能にし、有用性を高める。以上が、この分野においては類例のない、本研究の学術的独自性・創造性である。これにより、教師が通常授業で教科書を用いてジャンル準拠のPF課題に取り組めれば、「生きる力」につながりうる英語科の指導がより継続的・恒常的になされることになる。

また、このジャンル準拠指導と評価は、元々オーストラリアの学校英語教育に端を発しており、

「ジャンル準拠ライティング指導と評価 (Genre-Based Writing Instruction and Assessment)」が始まりであった。しかし、本研究は中高の通常の英語授業での実践を想定しており、ライティングに限らず新学習指導要領が求める 4 技能 5 領域全てにわたる活用を目指している。これは、ジャンル準拠教育発祥国オーストラリアでも行われておらず、なおかつ母語 L1 の教育ではなく L2 である外国語教育で実践されるという点で、極めて高い独自性・創造性を有する。(本研究は豪州の学校との学術交流も研究計画の一部としている。)

ジャンル準拠の指導と評価の活用を英語指導の中核に据えることを目指す本研究によって、日本の英語教育の現状を大きく改善することができる。実際、このジャンルによる英語指導は、『中学校新学習指導要領外国語』に規定されている「コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、(中略)表現したり伝え合ったりする」や「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し(中略)まとまりのある内容を話す[書く]」という目標の達成に最適である。本研究によって、英語教師に自信を、学習者に「生きる力」を与えることができれば、日本の英語教育の今後の発展に大きく貢献し得ると確信している。

## 2. 研究の目的

本研究の大きな目的は、ジャンル準拠の指導と評価によって「生きる力」を学習者に育むことであるが、より具体的には、日本で使われている中高の英語教科書の単元に沿って、このジャンル準拠指導と評価を行うための課題とその評価に必要な評価基準を開発することである。これにより、教師が通常授業で教科書を用いてジャンル準拠の課題に取り組むことで、「生きる力」につながりうる英語科の指導をより継続的・恒常的に行うことを可能にする。

## 3. 研究の方法

本研究は「課題開発」を基軸に、研究を以下のように順次展開した。

- (1) 高校英語におけるジャンルの意識についての調査(研究 )は、次のとおりである。 高等学校学習指導要領第 1 節国語及び第 8 節外国語 (平成 21 年版、平成 30 年版)、高等学校学習指導要領解説外国語編 (平成 21 年現行版、平成 30 年新版)、高等学校学習指導要領解説国語編 (平成 30 年版) について、ジャンルやテキストタイプに関わる文言や概念の有無を調査する。 旧検定教科書「コミュニケーション英語 」、 「英語表現 」 に掲載される言語活動 (口頭テキスト・書面テキスト産出活動) はジャンル (目的別テキスト) とテキストタイプ (形式別テキスト) を区別し両方明示しているかを調査する。(上記の調査の方法については今井・峯島・松沢 (2018) を参照)
- (2) 「教科書テキスト」における読みのための発問課題の調査(研究 )は、次のとおりである。 旧検定教科書「コミュニケーション英語 」 に掲載されている「本課テキスト」を用いた読み指導の前・中・後に設定される読みのための発問課題が、何を問うものとなっているかを調査する。 旧検定教科書「コミュニケーション英語 」 に掲載されている「本課テキスト」を用いた読み指導の前・中・後に設定される読みの発問課題が、本課テキストのジャンル (目的別テキスト) やテキストタイプ (形式別テキスト) に見合う問いとなっているかを調査する。(上記の調査の方法については今井 (2019) を参照)
- (3) 検定教科書に所収されたテキストのジャンルとテキストタイプの調査(研究 )は、次のとおりである。 旧検定教科書「コミュニケーション英語 」 に掲載された「教科書テキスト」のジャンルとテキストタイプを区別して調査し、その種類と頻度を調査する。 旧検定教科書「コミュニケーション英語 」 に掲載されたリード文にジャンルとテキスト

タイプが明示されているかを調査する。

- (4) 新中学校英語教科書におけるジャンルとテキストタイプの知識についての調査(研究 ) は、次のとおりである。 現行の中学校教科書にジャンルとテキストタイプの情報がどの程度明示されているかを調査する。 現行の中学校教科書を用いて効果的なジャンル準拠指導を行い得るかを検討する。(上記の調査の方法については今井(2021)を参照)

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究 の成果

研究 の成果について、今井・峯島・松沢(2018)から抜粋して、以下に示す。

研究 では、高校英語におけるジャンル指導の意識を探るため、学習指導要領等と検定教科書(口頭テキストと書面テキスト)を調査し、その結果、ジャンルの知識が十分に示されていないことを指摘し、ジャンル=テキストファミリーとテキストタイプを区別した上で両方を明示的に指導することの必要性を示した。高校英語教育の学習指導要領は、H30年版国語編に示されているように、ジャンルとテキストタイプといったジャンルの知識を指導学習において前面に出すことが望ましい。その結果、ジャンルとテキストタイプを区別して両方を明示した検定教科書が編纂されるならば、教師と学習者の双方がジャンルの意識を持つことができる。これにより、教師はまとまりのあるテキストを用いたコミュニケーションの力を育成する指導に自信が持てるし、学習者はジャンルの知識を活用してまとまりのあるテキストを介したコミュニケーションの力を確かに養うことができる。

##### (2) 研究 の成果

研究 の成果について、今井(2019)から抜粋して、以下に示す。

検定教科書「コミュニケーション英語」の「教科書テキスト」の前・中・後に付く読みのための発問課題はどのような問いか、「教科書テキスト」のジャンルやテキストタイプに見合う問いとなっているかを調査した。具体的には、任意抽出の教科書テキスト3編(今井、2019)について発問課題の実際を書き出し、学習者がジャンルを意識できる発問課題かどうかを検討した。その結果、調査分析対象となった3編の発問課題(54題)のうちジャンルやテキストタイプに見合う問いと判定した発問課題(9題)は2割以下で非常に少なく、発問課題にジャンルの意識は低いことが示唆された。調査からは、学習者のテキストの意味構築を補助し教師がその理解度をモニターする意図の発問課題が大半を占めていることが判明した。また、この意図の発問課題はテキストの内容を順次羅列的に問う設問であり、学習者にジャンルの意識を持たせる問いとはなり得ないと判定した。

##### (3) 研究 の成果

研究 の成果について、今井(2021)から抜粋して、以下に示す。

教科書テキストのジャンルの掲載には不均衡が認められ、教科書テキストは説明ジャンル群の叙事的説明ジャンルのテキストに片寄っていることが明らかになった。また、リード文にはジャンルの知識が十分に示されていない。高校英語の読みの指導では自立した読み手、優れた読み手を育てるという目標からすれば、生徒に多様なジャンルのテキストに触れる機会を保障し、ジャンルの知識を与え、現実世界で外国語としての英語がどのような目的でどのような形式で用いられるかをテキストを用いて指導することには意義があると思われる(Hyland, 2004; Silberstein, 1994)。

また、教科書テキストのテキストタイプの自明性が極めて低く、加えてリード文にはジャンルの知識の明示説明が非常に少ないことが判明した。総じて、現行の「コミュニケーション英語」

の検定教科書の教科書テキストでは、生徒に読みの目的と読み方を意識させること、テキスト全体を意識させることは困難であろうことが示唆された。これゆえに、英語の読みの授業では、生徒が多様なジャンルや具体的なテキストタイプに触れること、教師自身がジャンルの意識を持ち指導することが望ましいであろう。

また、教科書テキストでジャンルやテキストタイプを幅広く扱うことについてだけでなく、これに付随する読みのための発問や課題が当該テキストのジャンルに適正に応じることを問うているかについても注意を払いたい。通常、英語の授業で教師が教科書テキストを用いて読みを指導する際、教科書テキストだけでなくその周辺に付く読みのための発問や課題を活用して生徒の読み理解を促すであろう。そこで、読みの指導と学習で教師と生徒がジャンルを意識できるように導くためには、ジャンルに正対する発問や課題を設定することも重要だと思われる。

#### (4) 研究の成果

研究の成果について、今井・峯島(2022)から抜粋して、以下に示す。

中学生が英語のまとまりのある文章であるテキストを読み、書き、聞き、話すことができるようになることを目標として定めた中学校学習指導要領(平成29年告示)の下、新たに発行されたすべての中学校英語教科書(6社18種類)を対象に、4技能5領域を含む全7領域においてジャンルに関わる緒情報がどの程度明示されているかの明示率を調査し、さらに、これらの教科書を用いてジャンル準拠指導を行い得る可能性はあるかについて考察した。調査の結果、明示率は、ジャンルの情報については、読むことを除く他の6領域(4技能5領域に技能統合、学び方を加えた)で、最小でもおよそ60%、テキストタイプの情報についても、最小値であった読むことにおいてもおよそ70%であった。これらの調査結果から、新中学校英語教科書を用いてのジャンル準拠指導は十分に可能であると期待できる。

#### 引用文献

- 今井理恵・峯島道夫・松沢伸二.(2018).「高校英語におけるジャンルの意識：学習指導要領及び解説, 検定教科書の調査から」『関東甲信越英語教育学会誌』33, 55-68.
- 今井理恵.(2019).「高校英語におけるジャンル準拠リーディング指導：「教科書テキスト」における読みのための発問課題調査」『現代社会文化研究』第70号, 51-68.
- 今井理恵.(2021).「高校英語の授業におけるジャンル準拠リーディング指導の可能性：教科書に所収されたテキストのジャンルとテキストタイプの調査を通して」『現代社会文化研究』第72号, 11-28.
- 今井理恵・峯島道夫.(2022).「新中学校英語教科書におけるジャンルとテキストタイプの情報 中学校英語でのジャンル準拠指導の実行可能性調査」『中部地区英語教育学会紀要』51号, 241-248
- Derewianka, B., & Jones, P. (2016). *Teaching language in context* (2nd ed.). South Melbourne, Australia: Oxford University Press.
- Feez, S. (1998). *Text-based syllabus design*. Sydney: McQuarrie University/AMES.
- Hammond, J., & Derewianka, B. (2001). Genre. In R. Carter & D. Nunan (Eds.), *The Cambridge guide to teaching English to speakers of other languages* (pp. 186-193). Cambridge University Press.
- Hyland, K. (2004). *Genre and second language writing*. Ann Arbor, MI: The University of Michigan Press.
- Rose, D., & Martin, J. R. (2012). *Learning to write, reading to learn: Genre knowledge and pedagogy in the Sydney School*. Equinox.
- Silberstein, S. (1994). *Techniques and resources in teaching reading*. Oxford University Press.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 今井理恵、峯島道夫	4. 巻 51
2. 論文標題 21. 新中学校英語教科書におけるジャンルとテキストタイプの情報 中学校英語でのジャンル準拠指導の実行可能性調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 241-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 今井理恵	4. 巻 72
2. 論文標題 高校英語授業におけるジャンル準拠リーディング指導の可能性 教科書に所収されたテキストのジャンルとテキストタイプの調査を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代社会文化研究	6. 最初と最後の頁 11-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 今井理恵	4. 巻 70
2. 論文標題 高校英語におけるジャンル準拠リーディング指導 「教科書テキスト」における読みのための発問課題調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代社会文化研究	6. 最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 今井理恵、峯島道夫、松沢伸二	4. 巻 33
2. 論文標題 高校英語におけるジャンルの意識 学習指導要領及び解説、検定教科書の調査から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関東甲信越英語教育学会紀要 KATE Journal vol.33	6. 最初と最後の頁 55-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井理恵、峯島道夫	4. 巻 52
2. 論文標題 新高校英語教科書の読みのための発問課題の改良ージャンル準拠リーディング指導による指導改善のためにー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中部英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 251-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 今井理恵, 松沢伸二, 峯島道夫.
2. 発表標題 新中学校英語教科書でのジャンルとテキストタイプの明示的指導：読むこと・書くこと
3. 学会等名 全国英語教育学会 第46回長野研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松沢伸二, 今井理恵, 峯島道夫
2. 発表標題 新中学校英語教科書でのジャンルとテキストタイプの明示的指導：聞くこと・話すこと
3. 学会等名 全国英語教育学会 第46回長野研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今井理恵, 松沢伸二, 峯島道夫
2. 発表標題 ジャンルの目的に正対する発問課題の検討ー中学校英語におけるジャンル準拠リーディング指導のために
3. 学会等名 関東甲信越英語教育学会 第45回群馬研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今井理恵、松沢伸二、峯島道夫
2. 発表標題 ジャンルの目的に正対する発問課題の検討 高校英語におけるジャンル準拠リーディング指導のために
3. 学会等名 関東甲信越英語教育学会第44回オンライン研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今井理恵
2. 発表標題 ジャンル準拠リーディング指導による授業改善 - 新学習指導要領を具現化する
3. 学会等名 関東甲信越英語教育学会2020年度春期研修会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今井理恵・松沢伸二・峯島道夫
2. 発表標題 高校英語におけるジャンル準拠リーディング指導の可能性 検定教科書のテキスト調査からジャンルの意識を探る
3. 学会等名 関東甲信越英語教育学会第43回神奈川研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今井理恵、峯島道夫、松沢伸二
2. 発表標題 高校英語におけるジャンルの意識－学習指導要領及び解説、検定教科書の調査から
3. 学会等名 関東甲信越英語教育学会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 今井理恵
2. 発表標題 ジャンル準拠リーディング指導による高校英語の読むことの指導の改善－教科書の既存の読解問題の改編をととして
3. 学会等名 令和4年度新潟大学教育学部英語学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 今井理恵、峯島道夫、松沢伸二
2. 発表標題 新高校英語教科書の読みのための発問課題の改良 ジャンル準拠リーディング指導による指導改善のために」
3. 学会等名 全国英語教育学会 第47回 北海道研究大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松澤 伸二 (Matsuzawa Shinji)  (90207043)	新潟大学・人文社会科学系・教授  (13101)	
研究分担者	峯島 道夫 (Mineshima Michio)  (10512981)	新潟県立大学・国際地域学部・教授  (23102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------